

世界遺産条約採択40周年記念最終会合 プログラム (2012年11月6~8日 京都)

11月6日 (火)

9:30	<p>開会セッション：世界遺産条約採択40周年を記念して 開会の辞 西林 万寿夫 最終会合議長 挨拶 イリーナ・ボコバ ユネスコ事務局長 日本政府代表</p>
10:30~	休憩
10:45~	<p>第1セッション：記念講演 記念講演：「世界遺産と平和」千 玄室 ユネスコ親善大使</p>
11:15~	ビデオ上映「World Heritage around the Globe (地球上の世界遺産)」
11:30~	記念講演：「1972年条約の再考」ソック・アン 世界遺産委員会議長
12:00~	昼食休憩
14:00~	<p>第2セッション：世界遺産条約の歩み 基調講演「世界遺産条約40年の歩み」 クリスティーナ・キャメロン モントリオール大学カナダ・リサーチ・チェア</p>
15:00~	ユースステートメント：ユースプログラム（11月2日～5日）の成果発表
15:10~	<p>ーパネルディスカッションA：世界遺産の諸課題への取り組みについて</p> <p><u>座長</u> 松浦 晃一郎 前ユネスコ事務局長</p> <p><u>パネリスト</u></p> <p>「これまでの40年の世界遺産の主要課題」 ベナード・フォン・ドロステ 初代世界遺産センター長</p> <p>「国際法の視点から：「責任ある主権」モデルとしての世界遺産条約」 フランチェスコ・フランチオーニ 元世界遺産委員会議長、イタリア</p> <p>「アフリカにおける世界遺産条約に関わる状態のバランス」 ドーソン・ムンジェリ ジンバブエ・ユネスコ常駐代表次席、ジンバブエ</p> <p>「世界遺産条約の発展に関する歴史的考察」 ジェームス・ソーセル IUCN シニア世界遺産アドバイザー、カナダ</p> <p>「小島嶼開発途上国からの視点」 アリッサンドラ・カミンズ バルバドス博物館長、バルバドス</p> <p>フランチェスコ・バンダリン ユネスコ文化担当事務局長補</p>
16:30~	休憩

17:00~18:45	<p>第3セッション：世界各地の40周年記念行事報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産と持続可能な開発に係る会合（ブラジル、オウロ・プレット、2月） ・地域間会議「世界遺産とともに生きる」－欧州およびアフリカ (ノルウェー、レーロース、5月) ・国際会議「アフリカにおいて世界遺産とともに生きる」 (南アフリカ、ヨハネスブルク、9月) ・国際シンポジウム「アジアの世界遺産サイトの保全管理のためのコミュニティ参画」 (韓国、扶余、9月) ・アラブ世界の考古学と文化遺産第20回会議（アルジェリア、アルジェ、3月） ・「世界遺産ボランティア2012：領域と国境を超えて」の報告（ビデオ上映）
-------------	---

11月7日（水）

9:00~	<p>第4セッション：世界遺産条約の現在 「未来のための条約の今：持続可能な開発と防災・復興に関する新たな問題」 ジョージ・アブング オケロ・アブング世界遺産コンサルタントCEO、ケニア</p>
9:30~	<p>ーパネルディスカッションB：私たちの生活と遺産：世界遺産の持続的な開発と持続可能な開発のための世界遺産</p> <p><u>座長</u> ジェームス・リバンクス リバンクス・コンサルティングリサーチ・ディレクター、 英国</p> <p><u>パネリスト</u></p> <p>「世界遺産の持続的な保全か、持続可能な開発のための世界遺産か」 グスタヴォ・アローズ ICOMOS 会長</p> <p>「アフリカの世界遺産：持続可能な開発の制約となるか、好機となるか」 イシャンロセン・オディアワ アブバカル・タファワ・バレワ大学講師、 ナイジェリア</p> <p>「知床世界自然遺産地域における持続可能な観光のマネジメントー参加型アプローチによるイノベーション」 敷田 麻実 北海道大学観光学高等研究センター教授</p> <p>「持続可能な開発における文化遺産保全の役割」 ラナ・アマタマセビ 世界銀行 都市開発スペシャリスト</p> <p>「持続可能性を追求するラーニングモデルとしての世界遺産の役割」 稲葉 信子 筑波大学大学院人間総合科学研究科世界遺産専攻専攻長</p> <p>ラザール・エルンドゥ・アソモ ユネスコ世界遺産センター アフリカ課長</p>
11:15~	休憩

11:45~	<p>ーパネルディスカッションC：防災、コミュニティと災害復興</p> <p><u>座長</u> ティム・バッドマン IUCN 世界遺産プログラム長</p> <p><u>パネリスト</u></p> <p>「アンコール遺跡：1972年条約の適用から20年」 ロス・ボラット 世界遺産国内委員会委員長、カンボジア</p> <p>「防災と災害復興ー地域社会とともに」 大和 智 文化庁文化財鑑査官</p> <p>「バーミヤンと文化遺産の景観」 ハビバ・サラビ アフガニスタンバーミヤン州知事</p> <p>「自然保全が自然災害における防災・減災及び災害からの復興に果たす役割」 熊谷 嘉隆 IUCN 世界保護地域委員会(WCPA) 東アジア地域委員長</p> <p>「文化遺産の災害危機管理における人材育成：その機会と課題」 ロヒット・ジキヤス ユネスコ・チェア、 立命館大学歴史都市防災研究センター教授、インド</p> <p>ジョヴァンニ・ボッカルディ ユネスコ世界遺産センター 持続可能な開発/減災/人材育成担当</p>
13:00~	昼食休憩

14:30~	<p>第5セッション：世界遺産条約の将来 「1972年条約の将来へ向けた人材育成と国際協力」 ムニール・ブシュナキ 元ICCROM所長、アルジェリア</p>
14:50~	<p>「世界遺産条約：未来への提言」 キショー・ラオ ユネスコ世界遺産センター長</p>
15:10~	<p>ーパネルディスカッションD：条約の履行強化のための人材育成、条約への認識向上のための広報活動、および遺産の保全とコミュニティをつなぐ持続可能な開発</p> <p><u>座長</u> 西村 幸夫 日本 ICOMOS 国内委員会委員長</p> <p><u>パネリスト</u></p> <p>「持続可能な開発とその維持ーコミュニティの持続可能な生活と文化遺産の持続可能な保全」 タマシュ・フェイエルディ 元世界遺産委員会議長、ハンガリー</p> <p>「世界遺産条約の将来」 グレッグ・テリル オーストラリア環境省 遺産・野生生物部 次官補、オーストラリア</p> <p>「世界遺産に係わる人材育成の矛盾：新たなパラダイムに向けて」 ガミニ・ウィジェスーリヤ ICCROM プロジェクトマネージャー</p> <p>「世界遺産条約の主要概念の推進」 岩槻 邦男 人と自然の博物館館長</p> <p>「世界遺産条約と無形文化遺産保護条約の連携：コミュニティの場」 アーメド・スクンティ 人類学者、国立文化遺産・考古学研究所(INSAP)、モロッコ</p> <p>「世界遺産条約のこれからの履行」 クリストファー・ヤング イングリッシュ・ヘリテージ国際部長、英国</p>
16:40~	休憩

ーパネルディスカッションE：国際協力とパートナーシップ：世界遺産条約の履行における市民社会と公共・民間部門のパートナーシップの取り込み

座長

近藤 誠一 文化庁長官

パネリスト

「アフリカにおけるパートナーシップと課題」

ウェバー・ンドロ アフリカ世界遺産基金事務局長、南アフリカ

「世界遺産環境保全と企業の国際貢献」

小川 理子 パナソニック株式会社ブランドコミュニケーション本部
CSR・社会文化グループマネージャー

「ジャガー・ルクルト社と世界遺産海洋プログラム」

ステファノ・ボッシ ジャガー・ルクルト 日本マーケット ブランド CEO

17:10~19:00

「世界遺産をお茶の間に～世界遺産センターと二人三脚～」

小川 潤 TBS 国際部部長

「世界遺産と持続可能な観光」

ルイジ・カブリーニ 世界観光機関(UNWTO) 持続可能な観光発展部長

「地域からグローバルに広がるパートナーシップ：世界遺産サイトにおける小規模グラント・プログラム COMPACT の10年間」

デルフィン・ガナピン Jr. 国連開発計画(UNDP) 地球環境ファシリティ
小規模グラント・プログラム グローバルマネージャー

「境界を超えた利益：世界遺産地域におけるパートナーシップの確立」

吉田 正人 IUCN 日本委員会会長

「パートナーシップとは：ブータンの文化遺産保護法の草案作成の経験から」

河野 俊行 ICOMOS 執行委員会委員

ヴェスナ・ヴィジッチ＝ルガシ ユネスコ世界遺産センター

コミュニケーション/教育/パートナーシップ担当

11月8日（木）

	40周年記念プレゼンテーション
9:00～	「2015年以降の国際開発アジェンダにおける世界遺産条約」 フランチェスコ・バンダリン ユネスコ文化担当事務局長補
9:25～	世界遺産管理に関するベストプラクティスの顕彰
9:40～	「世界遺産：国境を越えた恩恵」40周年記念テーマである「世界遺産と持続可能な発展：ローカルコミュニティの役割」に関する書籍の発表
10:00～	持続可能な観光プログラムに対する支援アピール
10:15～	閉会セッション 成果文書「京都ヴィジョン」の発表 閉会の辞